

📖 今月のおすすめ本 📖

『友だち関係で悩んだときに役立つ本を紹介します。』【158/ト】

河出書房新社編(2024)河出書房新社

この本は、友だちの事でどうしたらいいか悩んでいるときに助けになる本として、作家やインタビュアー、哲学者など19名がそれぞれお勧めの本を紹介している本です。

どこから読んでもいいのです。目次を見てこれは！と思う紹介者、もしくは紹介されている本の所から開いてみましょう。また、そそられる目次の見出しもあります。例えば「友だちの話を聴いているだろうか？と不安になったとき」として作家・インタビュアーの尹雄大が紹介するミヒヤエル・エンデ著の『モモ』、「仲が良かった友だちと疎遠になってしまったとき」では文筆業の清田隆之が『拝啓 元トモ様』を紹介しています。また、自分のお気に入りの本がどう紹介されているかも気になるところです。

友達関係というお題で19人紹介者がいれば19かそれ以上のアプローチがあります。本書は「14歳の世渡り術」シリーズの1冊で、中学生以上を対象として書かれていますが、大人のあなたの琴線に触れる一冊が見つかるはずですよ。

📖 紹介された本の所蔵あります

『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』 【361.8/林】 清水 晶子(2022)有斐閣

📖 紹介者の本の所蔵あります

『さよなら、男社会』 【367.5/1】 尹 雄大(2020)垂紀書房

『おしゃべりから始める私たちのジェンダー入門』【367.1/村】 清田 隆之(2023)朝日出版社

『ひとりみの日本史』 【210.04/オ】

大塚ひかり(2024)左右社

現代では生涯未婚率が上昇し、結婚をしていない「ひとりみ」が増加していると言われています。日本では古くから古典文学や史料において、「ひとりみ」の思想が表現されていたと聞くとびっくりしませんか。本書では古代卑弥呼の時代から幕末までの時代を対象として、多様な「ひとりみ」が描かれています。『古事記』や『源氏物語』、大奥や歴史上の人物において「ひとりみ」がどの様に現れ、それぞれがどのような思いで生きていたのかを、紐解いています。

日本の古代の神々には独り神など孤高の存在もありました。また16、7世紀より前では、結婚は特権階級には多くみられますが、子供のいる「ひとりみ」も含むと「ひとりみ」で生涯を終えるのが大半だったと言われています。「ひとりみ」である理由を現代の事情と比べて読んでみるのも面白いです。本書は結婚や家族とは何か考えるきっかけとなり、未来の家族のあり方にも示唆を与えてくれるでしょう。

📖 ジェンダーの視点からの日本史も拾い読みしてみよう

『ジェンダーの日本史 上・下』 【367.21/7/1・2】

脇田 晴子、S. B. ハンレー/編(1994・1995)東京大学出版会